

はあもにい

第48号

第48号 発行/2026(令和8)年3月31日 藤沢市青少年指導員協議会 発行責任者/金子真由美 編集/広報委員会

JUMP UP U-20 WINTER CONCERT

2025年12月21日(日)
藤沢市民会館大ホール

JUMP UP U-20 WINTER CONCERT は、中学生以上
20歳以下の青少年による音楽活動の発表の場です。



毎年恒例の青少年によるコンサート。今年度は15組のグループが出演しました。
当日会場には鈴木市長が、出演者の皆さんを激励に来られ大変盛り上がりました。
演奏後の出演者からの感想です！

ナナ (なな)

すごく緊張したんですけど楽しかったです。

さそり (さそり)

色んな刺激をもらいました。楽しかったです！

夏のツナ (なつのつな)

ミスったけれど良い体験ができて楽しかった。

おむらいず (おむらいず)

とにかく楽しかったです！ミスも全部キャラになるくらいでした！

MASTER (ますたー)

2年ぶりに出演させていただいて、とても楽しかったです！

Squirts (すくわーつ)

会場が広くて楽しかったです。

ClamboM (くらむぼん)

とても楽しく、良い経験になりました。

Revival (りばいばる)

今までで一番大きなステージでの演奏でした。ありがとうございました。

ぴっく (ぴっく)

とても魅力のあるコンサートに出演することができてとてもしあわせでした。

Fool Back (ふーるばっく)

レベルの高い中で自分の音楽ができて良かったです!!

NOVA RISE (のばらいず)

皆んなのレベルがとても高かったし、自分たちにとっては初めての校外ライブだったこともあり、とても緊張しましたが、楽しくやれました。

究極バンド (きゅうきょくばんど)

とてもたのしかったです。ありがとうございました。

トリプリシティ (とりぷりしーてぃ)

2回目の出演でしたが、前回とは違い多様な演奏を弾けて良かったです。

Rose Hip (ろーずひっぷ)

皆さんの演奏を聴いて、とても刺激を受けました！楽しかったです！

Quadriceps (くあどりせぷす)

こんなに大きなステージで演奏させていただく機会は中々ないのでとても緊張したけど、とても楽しかったです

*コメントは原文のまま掲載しております



本市と姉妹都市であるマイアミビーチ市（アメリカ合衆国フロリダ州）のマイアミビーチ高校ロックアンサンブル部からのビデオメッセージを通して音楽交流を行いました。

詳しくは人権男女共同平和国際課ホームページへ 🔍



「JUMP UP U-20 WINTER CONCERT」舞台裏・・・



プログラム
(出演者作成)



司会のようす



11月6日(木) 出演者との打ち合わせ



レディオ湘南の
スタッフとグループ
ごとに、入念に
打ち合わせを行
ないました。



次の演奏が準備されるちょっとした
間も楽しいトークでつないでいま
した😊

市民会館建て替えのため、今ある施設での
最後の事業となりました。
再整備は2031年予定。
来年以降も本コンサートは藤沢市内の施設
で引き続き行われます♪



青少年指導員全体研修会

11月14日(金) 藤沢市民会館 第二展示集会ホール

『ジェンダーの視点から青少年健全育成活動を考える』

講師 独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子 氏



ジェンダー平等とは？生物学的な性の違いをなくすことではなく、社会的な立場における平等であること、男女が等しく意思決定にも対等に参画できることなどをクイズや替え歌を通して楽しく学ぶことができました。

「キューピー人形は男でしょうか？ 女でしょうか？」という問いに「キューピーはキューピーなのです！」とありのままの自分らしさや自尊心の大切さにあらためて気づくことができました。

また明治の大日本国帝国憲法の時代から現代まで、さまざまな不当な格差を解消してきた歴史的背景とともに、私たちの中にある男だから、女だからと知らぬ間にすりこまれている固定観念、無意識の偏見、思い込みに気づくことができました。自分の何気ないひとことが、知らぬ間に子どもの可能性を閉ざしてしまったり、心を傷つけてしまうことがあるかもしれません。女の子にはお手伝いを求めたり、門限を決めたり、女の子だからおとなしく、男の子だから泣いちゃダメ、職業を性別で決めたり等々、思い当たることはありませんか？

私たちがそのギャップやバイアスに気づき、見直していくことが多様な社会をつくり、子どもたちが「なりたい自分」への選択肢を広げ、さらにウェルビーイングの向上につながることを確信します。

この視点は青少年指導員としての大切な意識付けとなりました。

質疑応答では、青少年指導員協議会の名称「青少年」に疑問の声があがりました。先生からは「言葉が時代を映します。皆で考えていきましょう。気づいたら行動を起こしましょう。」とのアドバイスをいただきました。

不登校～ 不登校の現状と湘南台中学校の不登校支援、不登校生徒へのかかわり方 ～

講師 藤沢市立湘南台中学校 校長 松原 保 氏

プロフィール 体育大学卒業後、1987年4月から保健体育科教員として大庭中、第一中、明治中で24年間勤務、その後、藤沢市教育委員会教育指導課、羽鳥中校長、藤沢市教育委員会部長を経て、2022年4月より現在。



節分の日、不登校支援に取り組んでおられる湘南台中学校の松原保校長先生をお迎えし、お話を伺いました。令和6年度、全国の不登校児童・生徒数は35万人を超え、藤沢市においても、小学校で約400人、中学校で約700人と、不登校の現状があります。

湘南台中学校では、全校生徒の600人の約5%にあたる30人の生徒が不登校の状況です。不登校児童生徒数は、10年ほど前まではほぼ横ばいでしたが、ここ2、3年で急増しています。その背景にはコロナ禍の影響もありますが、令和元年に施行された「教育機会確保法」の考え方も大きく関係しています。この法律では、「学校復帰」をゴールとするのではなく、本人の状況に応じて学校を休むことも認めながら、安心して学べる環境を整えることが大切だとされていますが、市内19校の中学校のうち、校内に常時開設されている「居場所」がある学校は8校にとどまり、対応できる職員の不足が課題となっています。

湘南台中学校では教室に入ることが難しい生徒が、自分のペースで安心して過ごせるよう「湘中ルーム」を校内に開設し、教員が空き時間に対応するほか、現在26人の地域ボランティアの方が登録し、支援にあたっています。また、学校への登校が難しい生徒を対象に、総合市民図書館など校外の「居場所」でのボランティア体験も行なっています。はじめは月1回の参加だった生徒が、徐々に週1、2回参加できるようになり、その後「湘中ルーム」へ登校できるようになり、さらに部活動へ参加、最終的には教室に入れるようになった例も紹介されました。湘南台市民センターのイベントポスター制作を担当し、作品が掲示されたことで自己肯定感が高まり、その後、美術を専門的に学べる学校への進学につながった生徒の事例もありました。

校長先生のお話から、不登校支援は「学校に戻すこと」だけを目的とするのではなく、「その子に合った安心できる居場所をつくり、進路につなげること」から始まるのだということ学びました。

☆青少年指導員対象にアーカイブ配信もありました。

街頭指導キャンペーン

鈴木市長、川崎副市長および県職員・教育委員会・警察・青少年関連団体などが参加し、青少年の非行防止を呼びかけながら、啓発物品を配布しました。



年末特別街頭指導キャンペーン

12月1日(月) 藤沢駅周辺

2日(火) 湘南台駅周辺

春季特別街頭指導キャンペーン

2026年3月12日(木) 藤沢駅周辺



青少年指導員
ふじきゅん
バス No.484

青少年指導員協議会の活動を載せたHPをご覧ください。



非行防止ポスター展

10月24日(金)～11月4日(火)市役所本庁舎1階 ラウジ

青少年指導員協議会では、市内の中学生から非行防止ポスターを募集しました。
応募51作品の中から選ばれた優秀作品を紹介します。(順不同・敬称略)

会長賞(2名)



木村 真奏
片瀬中1年



中津海 莉子
鵜沼中2年

副会長賞(4名)



橋本 帆七美
片瀬中2年



高橋 政地
片瀬中2年



武衛 くるみ
片瀬中2年



K.A.
片瀬中1年

佳作(6名)



木村 望乃
片瀬中2年



岡田 奈央
片瀬中2年



國井 美海
片瀬中2年



高柳 美史愛
片瀬中2年



三原 多美子
鵜沼中2年



玉木 花苗
高浜中3年

令和7年度受賞者

☆神奈川県青少年育成功労者表彰

長尾 清子(湘南台)

☆神奈川県青少年育成活動推進者表彰

菊地 明美(藤沢東部) 仲井 美幸(片瀬)

☆神奈川県青少年指導員表彰

森 文歌(遠藤) 水澤 愛(明治)

☆藤沢市表彰

武笠 久美 (御所見) 霜島 麻紀(片瀬)

鍵和田 千代子(御所見) 大村 順子(遠藤)

箭竹 恵美(遠藤) 後沢 恵子(長後)

小林 朋子(善行) 麥倉 美恵子(善行)

齊藤 正枝(善行) 由川 薫(湘南台)

佐藤 八千代(藤沢東部) (順不同・敬称略)

表彰された皆さま、おめでとうございます

はたちのつどい

テーマ:「 」あなたの人生の辞書

2026年1月12日(月・祝)藤沢市民会館



二十歳を迎えた市民4,216人(参加者2,672人)をお祝いしました。公募による実行委員の皆さんが企画運営をし、青少年指導員は受付を担当しました。来年は日本大学生物資源科学部体育館で開催となります。

◆ 編集後記 ◆

活動を通して理解を深め、人と人のつながりの大切さに気づかされ、また声をかけると返してくれる子どもたちの笑顔と言葉に元気をもらえます。

皆さんも青少年指導員の役割や活動に興味を持っていただくと嬉しく思います。